

幼稚園における人形劇の人形のつくりについての史的考察Ⅱ

—現代の幼稚園における人形のつくり—

東京家政大家政 ○山内昭道 斎藤尚子

〈目的〉幼稚園における人形劇は倉橋惣三によって始まり、内山憲尚、山内勇仙、松葉重庸らによって普及されたが、オニ次世界大戦後から今日までの日本の幼稚園において、人形劇のための人形のつくりは、どのように継承されているのか考察し、人形のイメージの時代的影響を明らかにする。

〈方法〉前回発表したギニョールと現代のギニョールについて、つくり、素材、大きさ、姿などを比較検討する。調査の対象は

1. 豊産幼稚園の保育者によって製作されたギニョール
2. 同上園及び本学附属みどりヶ丘幼稚園の保育室にある園児用のギニョール
3. テレビや絵本に登場するキャラクター

〈結果〉

1. 人形の大きさ、頭かぶと身長との関係については、戦前の人形と比較して、頭かぶが大きくなり、全体的にも大きくなっている。
2. 発泡スチロールなど新しい素材が利用されるようになり、又、縫いぐるみのような人形では、そのつくりが大きく変化している。
3. 子ども自身が自由に演ずるための人形も市販されるようになったが、子どもの手では操作しにくいものがある。
4. テレビや絵本に登場するキャラクターの中には、三頭身から二頭身のものが多くなり、人形劇の人形にも多くの影響を与えている。